

<校訓>
高志共生

大庄中通信

大庄中学校
H24年度第10号
(H24.7.10・火)

中学校の5段階評定のつ仕方

中学校の各教科の評定は、5段階でつけられます。保護者の皆様が中学生の頃は、「絶対評価」という方法で成績がつけられていましたが、前回の学習指導要領の改訂に伴い、兵庫県では、平成14年度から「絶対評価」という方法で5段階の評定がつけられています。

総得点から5段階を決定する「絶対評価」



「絶対評価」では、統計学の理論に基づいて、5→7%、4→24%、3→49%、2→17%、1→3%というように、各段階ごとの人数配分の目安が決められています。例えば、149人の学年なら、成績順に上から11人が「5」、次の36人が「4」、次の73人が「3」、次の25人が「2」、次の4人は「1」という人数配分になります。ただし、各段階の境界線のあたりで、ほとんど差がない場合は、人数が多少増減することもありますから、上記の149人の学年の例で、「4」が40人ということもあります。評定のための資料は、その学期の定期テストや小テスト、提出物や作品などで、それらの点数を総合計して5段階評定が決まります。

その中で、特に顕著な観点については、+や-、○や×をつけることもあります。

観点(A・B・C)から5段階を決定する「絶対評価」

これに対して、「絶対評価」は、各教科の観点(国語は5観点、その他の教科は4観点→通知表の教科名の右側に文章で書いてあるもの)について、単元ごとに評価規準に基づいて、A(十分満足できる)、B(おおむね満足できる)、C(努力を要する)で評価し、学期分を総括して学期の観点の評価を決め(通知簿にA・B・Cで記載されています)、それを得点化して5段階評定が決定されます。

具体的に説明しますと、各観点は、満点の80%以上をA、79~50%をB、49%以下をCという基準でA・B・Cを決めます。次に、観点ごとに、Aを5点、Bを3点、Cを1点として、4つ(国語の場合は5つ)の観点の得点を合計して、観点の数で割り、それを四捨五入した数値が5段階評定となります。例えば、観点が4つの教科で、学期末にAが2つ、Bが1つ、Cが1つとなったら、A・A・B・Cですから、 $(5+5+3+1) \div 4 = 3.5$ となり、四捨五入して5段階評定は「4」となります。

その他の例をいくつか紹介します。A・A・A・Bなら合計点が18点で、4で割ると4.5ですから評定は「5」です。A・A・B・Bなら合計点が16点ですから、評定は「4」です。B・B・C・Bなら合計点は10点ですから、4で割ると2.5ですから評定は「3」となります。

また、教科の特性によっては、いずれかの観定の比率を大きくする「重みづけ」をする教科もあります。例えば、保健体育では、「運動の技能」の観定の得点を2倍しますから、「運動の技能」がAなら10点、

Bなら6点として合計点を算出し、合計点を5で割って評定が決まります。

ふだんの学習も評定の資料

「絶対評価」の各教科の観定は、定期テストの得点だけでなく、授業などふだんの学習活動も評価の資料になります。テストで問われる知識や思考力などだけでなく、宿題、ノートやプリント、小テスト、作品や実技テストなども評価の資料となり、観点のA・B・Cが決めます。



「絶対評価」では、観点から評定が決定されますので、テストの点数は良いのに、関心・意欲がCのため「5」がつかなかったり、実技教科で、実技の技能(成績)は高いのに、知識・理解の観定がCのため「5」や「4」がつかなかったり、ということもあります。

また、「絶対評価」には、各段階ごとの人数配分はありませんから、よい成績の人が多ければ、5や4の人数が増えることもありますし、逆の場合もあります。

1・2学期は1年間の途中経過

1学期と2学期の成績は、1年間の途中経過です。1~3学期を合わせたものが1年間の成績(通知表の「学年」となり、進路の際の調査書や学校に保存する指導要録に記載する年間の成績となります。1学期の成績が多少悪くても、2・3学期で取り戻すことは不可能ではありません。

家庭訪問でお配りした「シラバス」には、各教科の観定の項目と評価の資料や方法を記載していますので、こちらもご覧になってください。

市内中学校総体 速報(7/8現在)

6/30(土)から、阪神・県・近畿・全国大会とつながる市内中学校総体が始まりました。各クラブともよく頑張りと、次のクラブ・個人が阪神大会(7/21~23)に出場することになりました。

- ・剣道部 男子団体戦(3位) 岡崎新・開発大地・石田孝則・横林篤・久保田穂
- ・女子バドミントン部 団体戦 栗尾春花、村田美玖、南田亜美、中村綾乃、堀谷美月、長江美月
個人シングルス 栗尾春花、村田美玖、横山美夢、幸山裕衣
個人ダブルス 南田亜美・中村綾乃組
- ・男子ソフトテニス部 個人戦 上田将嘉・田宮優大組(7/8現在でベスト16)
- ・水泳 畑下昂平 100m平泳ぎ(1位)、200m個人メドレー(1位)
宮寄真志 200m平泳ぎ(3位)
川本衣織 100mバタフライ(2位)、200mバタフライ(2位)



- ・野球部は、ベスト4をかけた次戦(VS小田南・7/11)に勝てば、阪神大会出場となります。
- ・サッカー部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、女子ソフトテニス部は、すでに敗退となりました。



(文責:校長 福井 隆夫)